2023 年（令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月）小浜市「重大ニュース」

■高速交通網の整備に向けて活動

令和６年３月１６日（土）の北陸新幹線敦賀開業が目前に迫る中、北陸新幹線小浜・京都ルートの早期着工、早期全線開業に向けた決起集会や、国、関係機関に対する官民一体となった要望活動が活発に行われました。

さらに、広報啓発活動についても、今年は市内や県内はもとより、関西地域や甲信越地域にも幅を広げて、北陸新幹線の早期全線開業に向けたＰＲ活動を積極的に展開し、北陸新幹線の全線開業による時間短縮効果などをアピールしました。

また、舞鶴若狭自動車道の４車線化事業の舞鶴東インターチェンジ（ＩＣ）－小浜ＩＣ間のうち、福井県域の一部区間の工事が着手されることになり、１０月２９日（日）に着工式が行われました。４車線化の工事が着工されるのは県内初で、これにより安全性が向上するほか、災害発生時にも代替道路の確保が可能になります。

（左）北陸新幹線小浜・京都ルート建設促進同盟会総会、決起集会（7月１日）
（右）敦賀駅に新幹線試験車両が乗り入れ（10月１日）

舞鶴若狭自動車道舞鶴東 IC－小浜 IC 間4車線化事業着工式（10月29日）

■拉致問題の解決に向けて闘い続く

拉致被害者５人が帰国してから１０月１５日（日）で２１年を迎えました。長い年月が経過し、拉致問題を知らない若い世代が増えていることから、１０月６日（金）には、拉致問題への理解の推進と問題の風化防止を図るために、拉致被害者の横田めぐみさんの弟で、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会の横田拓也（よこたたくや）代表が小浜市文化会館で講演を行いました。また、拉致被害者の地村保志さんも「救う会福井」が行う署名活動への参加や市内外の小中学生、大学生を対象とした講演会を行うなど、早期解決に向けて訴え続けています。

また、１０月１２日（木）には、在日米国大使館のジョン・ナイリン政務担当公使が、４５年前に拉致被害が発生した小浜市の現場を視察。福井県警察本部の職員から、当時の現場状況の説明を受けながら、拉致された現場を確認しました。

さらに、１０月３１日（火）には、小浜市、柏崎市、佐渡市の小学校（各市１校）をオンラインで結んだ「拉致問題を考えるオンライン子ども会議」を開催し、各小学校の児童が拉致問題に関するそれぞれの取り組みについて発表し合いました。拉致被害者である地村保志さん、蓮池薫さん、曽我ひとみさんもそれぞれの小学校から参加しました。

小浜市開催校の加斗小学校では、今後の取り組みとして「国や政府に一日も早い解決を願う手紙を書く」と発表しました。

（左）横田拓也代表が拉致問題への意識を高めるため、中学生や市民に向けて講演（10月6日）
（右）在日米国大使館のジョン・ナイリン政務担当公使が現場を確認（10月12日）

（右）小浜市、柏崎市、佐渡市の小学校をオンラインで結んだ子ども会議を開催（10月31日）

■児童・生徒の幅広い活躍光る

３月２１日（火）に、若狭高校生と地元６事業者などが連携して商品開発した「サワラの中華風缶詰」の販売会が行われたほか、９月２１日（木）に、若狭東高校の生徒５人と地元２事業者が協働で開発した、コウギクを使用した商品「玄白饅頭」が初披露されました。

また、小浜中学校の３年生４人が国登録有形文化財の「洗心館」を市民が集える場にしたいとリノベーションに挑み、文化財の保存と活用に取り組んでいるほか、小浜第二中学校の３つのグループが小浜の海の保全を目指した先輩の活動を受け継ぎ、保育園児や小学生とともに海岸清掃や「スポゴミ」に取り組むなど、啓発活動にも力を入れ、地域と連携し、「愛される小浜の海」を目指しました。

中名田小学校でも、５．６年生７人が地元の「田村米」を使ったクッキーの販売を行い、地域の魅力を存分に伝えてくれました。

スポーツでは、７月２８日から３１日にかけて北海道で行われた全国高等学校総合体育大会（インターハイ）のローイング競技で、２人乗り種目の男子ダブルスカルに出場した若狭東高等学校の山田浩太（やまだこうた）さんと深川峻希（ふかがわたかき）さんが優勝の栄冠を手にしました。

若狭高校生と地元6事業者などが連携して商品開発した「サワラの中華風缶詰」

若狭東高校の生徒5人と地元2事業者が協働で開発した「玄白饅頭」

山田浩太さんと深川峻希さんが市長に優勝の報告（8月28日）

■コロナ前のにぎわいが復活！

新型コロナウイルスが世界で猛威を振るい、約４年が経過。今年５月８日（月）にようやく感染症の位置づけが５類に引き下げられました。

市内の祭事や催しもコロナ前のにぎわいを取り戻し、長かった我慢の時期を乗り越え、市民の笑顔が戻りました。

若狭マリンピア2023花火大会（8月1日）

第20回 OBAMA 食のまつり（10 月22日）

御食国若狭おばま YOSAKOI 祭 2023（9月 10 日）

放生祭（9月16日）

■小浜の玄関口　道の駅「若狭おばま」リニューアルオープン

令和５年春の北陸新幹線敦賀延伸を見据え、道の駅「若狭おばま」が、３月３１日（金）にリニューアルオープンし、前日の３月３０日（木）に工事完成式が開かれました。

物販館は、売り場面積をこれまでの１．６倍に拡大。同店オリジナルのスイーツや地元の野菜やさば缶、塗り箸などの特産品に加え、さばの醤油干しや地元産の青果を使用したフードメニューが楽しめるほか、エントランスには幅５．８㍍の巨大な「鯖のれん」が来店客を出迎え、サバのぬいぐるみが入ったクレーンゲーム「鯖街道キャッチャー」を設置するなど、鯖街道の起点のまちである小浜を体感できる仕掛けが施されました。

小浜を訪れる観光客はもちろん、地元の皆さんにも楽しんで利用したいただける施設が完成しました。

道の駅「若狭おばま」リニューアル工事完成式（3月30日）

道の駅「若狭おばま」リニューアル店舗お披露目（3月30日）

■公民館がコミュニティセンターへ移行

４月１日（土）に、市内１２地区の公民館がコミュニティセンターに移行し、新しいまちづくりが始動しました。

コミュニティセンター化によって、社会教育活動は継続しながら、まちづくり活動など、より幅広い用途での利用が可能となり、誰もが使いやすい施設になりました。

また、各コミュニティセンターに Wi-Fi を整備したことで、インターネットを活用した地域づくりも可能になり、各地域で新しいまちづくりが始まりました。

松永コミュニティセンターオープン
耐震・長寿命化工事完成セレモニー（4月1日）

遠敷コミュニティセンターの「鯖街道楽市楽座」
（6月17日）

■市民の生活を支える施設「若狭広域クリーンセンター」が完成

３月２６日（日）に若狭広域クリーンセンターが竣工し、４月３日（月）から若狭地域４市町のごみの受け入れを開始しました。

同施設は、「地域との共生を目指す安全・安心な新世代のエネルギー回収施設」として、１日に７０トンのごみを処理することができ、焼却時の熱を利用し発電する設備を有し、同規模施設においてトップレベルの発電効率を有します。

センターには、設備を見学できる窓や、ごみ処理について楽しく学べる設備があり、小学生の環境学習にも活用されています。

竣工した「若狭広域クリーンセンター」

若狭広域クリーンセンター竣工式（3月26日）

■御食国若狭おばま食文化館　開館２０周年を迎える

御食国若狭おばま食文化館は、今年で開館２０周年を迎えました。

本市の「キッズ・キッチン」の取り組みは、この２０年間継続して実施されており、２０１５年のミラノ万博では、日本を代表する食育事業として紹介されました。

その間、キッズ・キッチンに参加したたくさんの子どもたちが、大人になり、あるいは親になった今、本市で経験した食育を受け継いでくれており、この２０年の食育への取り組みにより、市民の皆様に食のまちづくりが浸透するとともに郷土愛の醸成にもつながっています。

９月１７日（日）には２０周年記念事業として、有名料理人やウェルビーイング研究者などと市民によるパネルディスカッションを行い、７月に改修および設備の充実を図ったマリンデッキでは、市民グループが主体となってキッチンカーや物販の出店があり、多くの来場者でにぎわいました。

御食国若狭おばま食文化館

キッチンカーなどでにぎわうマリンデッキ（9月17日）

■福井県立大学　先端増養殖科学科　「かつみキャンパス」が開設

１０月に福井県立大学の４番目のキャンパスとなる「かつみキャンパス」が開設されることに先立ち、９月２７日（水）に福井県や大学関係者、地域住民などが出席し、開設記念式典が開催されました。

令和４年４月に開設された先端増養殖科学科は、全国でも初となる「増養殖」に特化した学科で、福井県水産試験場、ふくい水産振興センターが集積した「かつみ水産ベース」にキャンパスが建設されました。

キャンパス内には、大型水槽を備えた飼育実験室や陸上養殖実験が行える閉鎖循環水槽など、最先端の研究や実験が行える設備が備えられています。

今後は、マサバやマガキなどの養殖の振興に向けた研究・技術開発に加え、海洋生物資源学科の定員に合わせ、毎年約８０人の学生が本市で新生活を送ることとなり、地域により一層の活気が生まれるとともに、将来の地場産業を担う人材の育成等に繋がるものと大きな期待が寄せられています。

かつみキャンパス（写真提供：福井県立大学）

かつみキャンパス開設記念式典（9月27日）

■ 市民の心身の健康を支援 「健康管理センター」がグランドオープン

新しい健康管理センターが５月１日（月）の一部供用開始を経て、１１月２７日（月）に全館グランドオープンしました。

健康管理センターでは、「生活サポートセンター　あいあい」「子育て応援センター　すくすく」「高齢者支援センター　いきいき」の３つの大きな窓口を設け、出産や育児、介護の手続、生活に関するあらゆる悩みごとの相談などに対応する体制を整えました。

３階は子育て支援センターや一時預かりルームを設け、子育てを応援するフロアとなっており、４階は、健康づくりや介護予防に向けインストラクターの指導を受けながら運動ができるエリアを設置したほか、ボルダリングやトランポリン、将棋など、世代を超えて市民が自由に交流できるエリアなども備えました。

グランドオープンした健康管理センター

健康管理センターグランドオープンセレモニー

（11月26日）

健康管理センターオープニングイベント

（11月26日）